

はじめに ——裁縫雛形と歴史文化館——

本学園には明治から昭和初期における裁縫教育において生徒が制作した、実物の正確なミニチュア制作物である「裁縫雛形」が多く遺されています。教育資料としてもまた民族資料としても価値が高いとされているこの裁縫雛形（以下、雛形という）の整理を始めたのは、実はかなり以前のことでした。卒業生から寄贈されていた雛形が4個の衣装ケースに保管されていましたが、それに改めて目を向けたのは平成10（1998）年のこと。故梶山正弘氏（前学園長）と、当時学園の資料の管理にあたっていた故松井康太郎氏（元学園参与）、そして、かねてから雛形資料に関心があった杉藤重信氏（人間関係学部教授・歴史文化館専門委員）の3人が、事務局メンバーとともにそのケースの中身を改めて確認しました。翌年の平成11（1999）年には故梶山正弘氏・杉藤重信氏・故梶山藤子氏（元家政学部名誉教授）の3人が岐阜県に赴き、本学園卒業生の遺品である雛形のコレクションを拝見する機会を持ちました。その後梶山藤子氏と中保淑子氏（生活科学部名誉教授・歴史文化館雛形研究員）らが、所蔵の雛形の整理に着手しましたが、それ以後、本格的に雛形研究が始まるまでにはさらに数年を経ることになります。

平成21（2009）年、梶山女学園に新たに「梶山女学園歴史文化館」が誕生しました。雛形の一部を館内に常設展示するとともに、翌年「雛形研究会」をスタートさせ、本格的な研究を開始することになりました。

研究員は中保淑子氏（前掲）・加藤雪枝氏（生活科学部名誉教授）・寺社下珠江氏（元非常勤講師）・米津昌子氏（元非常勤講師）の4名。毎月約2回のペースで研究会が持たれ、雛形の調査・研究および基礎資料の整理がなされました。

また雛形資料の写真撮影、デジタル化、ホームページへの掲載、そして本書のデータ作成については三木邦弘氏（現代マネジメント学部准教授・歴史文化館専門委員）が担当し、また雛形の図のトレースについては阿部順子氏（生活科学部准教授・歴史文化館専門委員）が担当しました。

上記のように長い経過の中で多くの人々が携わって、このたび当館所蔵の裁縫雛形コレクションを一冊の本としてまとめることができました。当館を開設してちょうど10年という節目の年に出版できるのは、館の開設から携わってきた者として喜ばしい限りです。

雛形をご寄贈いただいた卒業生の方々やそのご家族はじめ、ご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。このコレクションが梶山女学園の原点であった裁縫教育の歴史と実態、そして当時の学生たちの熱意やレベルの高さを後世に伝えるものとして、今後広く活用していただければ幸いです。

平成31年3月

梶山女学園歴史文化館 館長 梶山美恵子

I 女子教育と裁縫

1 学園創設の時代背景

明治時代は教育の国家的な整備が推し進められ国民教育制度が成立した時代である。明治 4（1871）年の文部省設置に続いて明治 5（1872）年に「学制」が發布され、明治 19（1886）年初代文部大臣森有礼によって、初等教育から高等教育まで繋がる学校制度が作られた。しかしこの制度が定着するまでには長い年月を要することになる。

小学校は尋常小学校（4 年）の上に高等小学校（2 年）があったが、義務教育（4 年）においても、学校での教育の必要性への疑問や、貧困の問題、また小学校教育が有償だったことなどから、途中で退学する児童が少なくなく、就学率はなかなか伸びなかった。

特に女子の就学率は低く、明治 24（1891）年になっても男子の半分以上でなかった。それは当時の社会で女子には必須と考えられていた裁縫教育が小学校で充実していなかったことも一因であったとされている。その後、裁縫専修科が設置されるなど、裁縫教育の扱いはさまざまに変遷したが、明治 33（1900）年の「小学校令」の改正によって義務教育が無償化されたことで、女子の小学校就学率も急速に高まっていった。

小学校就学率	明治 24 年	男子 66.7%	女子 32.2%
	明治 36 年	男子 96.6%	女子 89.6%
	明治 40 年	男子 98.5%	女子 96.1%

小学校卒業後の教育制度として、男子には中学校（現在の中学校と高等学校にほぼ相当）が用意されていたが、女子にはそれがなく、明治 32（1899）年になって初めて男子の中学校に相当する「高等女学校」の設置が可能になった。しかし当初一般庶民の家庭の女子にそのニーズは少なかった。一方、当時小学校で裁縫専修科が廃止されるという事態が生じていた中で、女子が小学校卒業後に学ぶ場所として、裁縫実技の習得を機軸とする裁縫女学校のニーズが高まることとなった。

「名古屋裁縫女学校」（椋山女学園の前身）はこのような時代を背景として創設された。

2 学園創設と裁縫教育

学園創設者椋山正式（すぎやままさかず）は明治 12（1879）年岐阜県に生まれた。小学校の教員や岐阜県教育会の仕事を経る中で、女子教育の向上が当時の社会に不可欠であると考えていた正式は、その第一歩として裁縫女学校の開設を計画する。まずは自ら裁縫理論と技術を習得することが必要と考え、東京裁縫女学校（現在の東京家政大学）で学ぶことを決意した。

男子であるために入学を断られるが、正式の志の高さが東京裁縫女学校の校長（渡邊辰五郎氏）に認められ、門下生として学ぶことになり、約 1000 名の女学生の中の黒一点として 3 年間苦勞と努力を重ね、裁縫の理論と技術に精通した。

東京裁縫女学校では同郷出身で同じ志を抱いていた中村今子と出会い結婚。明治 38 年、妻となった今子とともに名古屋において、生徒 90 名教員 3 名からなる「名古屋裁縫女学校」を開校した。二人は自ら裁縫教科書（*）を出版し、教壇に立って裁縫教育の充実に取り組むとともに、寮では生徒と寝食を共にして全人教育を目指した。

カリキュラムにおいても、技芸を中心としながら一般教育も合わせたカリキュラムを持つ全人教育であった。正式は、「技芸科」は技術の習得とともに「知育、情育、意育」において「その教育上に及ぼす価値の如何に偉大なるか」と説いて「技芸教育の改善確立」を促した。また、当時の女子教育における良妻賢母主義と職業教育主義の二つの考えについて、正式は、両主義が「互いに混和加味」することが肝要であり「・・・何人と雖も、独立自営し得るだけの能力を有せざるべからず。故に学校は、女子に適当なる職業を授けて、独立自営の準備をなさしむべき任務を有すと。・・・」として、自立できる実力を養う教育を目指した。（文中「 」は『愛知教育』（明治 41 年）より）

（*） 梶山正式・今子の裁縫教科書

・『新編裁縫科教授法』（明治 38 年 梶山正式著 東京裁縫女学校同窓会発行）

・『衣服裁方圖解』前編・後編（明治 39 年 梶山今子編・梶山正式閱

名古屋裁縫女学校発行）

（この著書は梶山女学園歴史文化館のホームページにおいて全文を紹介している）

・『新令適用小学校裁縫科教案および教方』6 冊（明治 42 年 梶山正式著

東京裁縫教授法研究会発行）



3 裁縫雛形とは

明治維新の後、日本は近代化政策の一つとして、学校教育制度の実施にあたり、一斉教授法を採用した。しかし、裁縫教育においては、明治維新以前の伝統的な教授法が主流であったことから、早期に教授法を改革する必要が求められた。伝統的な教授法とは、多種多様な教材を用いた個人教授法によるもので、教師が生徒の前で単衣等を縫い、それを見て生徒が模倣し、教師が一人ひとりに縫い方を教えるというものであった。

こうした流れの中で、裁縫教育課程の一斉教授法として考案されたのが、仙台大学の前身である松操女学校の創始者である朴沢三代治が制作した掛図を用いた教授法と東京家政大学の前身にあたる東京裁縫

女学校を設立した渡辺辰五郎が考案した裁縫雛形の製作による教授法であった。前者は、大きな掛図を生徒の目の前で示して教えるものであり、後者は、教科書を用いて、より多面的な裁縫の技術を学ぶものであった。

裁縫雛形は、裁縫教育課程における授業製作物として、当時生活に用いられた和装、洋装を始め、職業着、有職類、日常生活品（蚊帳、夜具、帽子等々）など多種類のものがある。これらの殆どは、実寸大の1/3の大きさと製作されている。東京裁縫女学校の卒業生が、日本全国で学校を設立し、裁縫教育課程に、裁縫雛形製作を取り入れたことから、日本全国に広まり、今日において数多くの制作物が残されている。

また、裁縫雛形は、渡辺辰五郎が考案した「雛形尺」（鯨尺2尺を7寸、つまり約1/3の長さにしたもの）を用いて製作するため、1/3の縮尺計算をする必要もなく、当時は高価であった材料費と製作時間の節約になり、短期間で多種多様な縫い方を習得する当時の最新の裁縫教授法であった。さらに、布の裁ち方については、反物に積算法を用いてサイズを設定し、裁断を行う方法が採られたことからさらなる材料費の節約となった。

椋山女学園においては、学園の創設者である椋山正式・今子夫妻が東京裁縫女学校で学んだことから、裁縫の授業では、多くの裁縫雛形が製作された。



Ⅱ 雛形資料の整理

1 資料の調査概要

雛形資料の調査は次のような手順で行った。

- ① 各裁縫雛型について、名称、試料番号、製作者、製作年、使用者、材質、仕立方、検印、用途等を記載する。その他大きさ、備考などを記載する。
- ② 裁縫雛形個々の特徴を詳細に記す。
- ③ 雛型の前面・後面の写真撮影（カラー）とパソコンを使用して構成図を描き、各部位の名称と寸法を記入する。

私立名古屋裁縫女学校に在籍した生徒の作品には、各時代を代表する作品が多く含まれており、また職業用などを含む幅の広い服装を学ぶ上で適切であり、充実した教育が行われていたと判断した。また、個々の作品がそれぞれ正確に、美しく仕上げられており印象に残った。

平面構成の直線性を基本とした和装と立体構成の曲線性の洋装を同時期に学び、身体にフィットした洋装から身体への測定、型紙を作る必要性、布の無駄を省いた裁断など、多くの処理能力が一時に求められ、教育にはよい経験が得られたものと思われた。洋装についてシャツなどの打ち合わせが初期には突合せから、比翼仕立てに変化しており工夫が見られます。平面から立体への移行もスムーズに進められており、このような教育が日本の文化を支え発展させたものと改めて感じた。

洋装の縫製に関して、手縫のみの作品、手縫とミシン縫を合わせた作品があるが、これらは少数であり、ミシン縫が極めて多く用いられている。ミシンの普及にまた、裁縫技術の変化にも速やかに対応されていることが伺える。ミシン縫製が洋装への移行を容易にしていると思われる。仕上げまでの時間には差が生じ、能率、生産性につながるものであり、生徒に新しい力、新たな方向性を与えたものと思われる。

奈良時代までの服装は唐の影響を受けていたが、平安時代になると和風独自のものが出現した。時代が進み着物の主服化によって男性は着物に袴を着けていたがやがて着物に細帯、女性は着物に帯が整えられていった。そして生活に順応させて変化させている。日本人の独自の美を表しているものと思われる。

平安時代の五衣は5枚重ねて着る袷仕立ての着物である。衿、袖口、裾に裏地を少しのぞかせるように仕立て、これを「おめり」と言う。現代に到る裾の部分を見ると、裾廻しの部分を2枚あるいは1枚別作りし、表長着に綴じ付ける。2枚綴じ付けたものを本裁比翼・附比翼、1枚のものを本裁比翼と呼ぶ。現在の着物は裾の「ふき」として継承されており、形式を変えながら現在の着物は長い歴史の中で、日本の文化として伝えられている。

赤子の宮参りに産着の上に着せるものに胞衣（えなぎ）がある。この背中に背守り（せまもり）という飾りをつける。背守は大人物の背紋をつける位置に刺繍でつける飾りのことであり、古くは「背の縫目のない着物を着ると魔がさす」と信じられていたため、お守りとして付けたといわれている。先人の教えは大切に守るという教育方針のあらわれと思われる。

現在は一般的に使用されていない、さまざまな使用目的、形態の作品にふれ、当時の生徒さんの努力またそれを指導された先生がたの力に感心した。個々の作品の作者名、何時作られたのか記載があるものは少ないのが残念に思われる。参考文献も少なく、調べながらの作業でなかなかはかどらなかった。この整理には長時間を要した。

2 裁縫雛形の分類

雛形の分類は、当初梶山オリジナルの分類で行っていたが、他の資料との比較の便宜を図るため、東京家政大学と同じ形に分類した。裁縫雛形は和装、洋装、有職類、生活用品など多種多様であるが、これらの雛形を分類するに際して次の点に注目した。

1. 資料の形態（江戸時代以前、明治、大正、昭和の時代の様相）
2. 裁断（平面構成、立体構成）
3. 縫製（手縫、ミシン縫）

上記に基づいて、次の4項目に大分類した。

1. 和装
2. 洋装
3. 有職類（平安中期以後鎌倉時代にかけて朝廷を中心とした公家・武家の公的儀礼上に定められた法式を有職故実という。その中に服装も定めた。）
4. 生活用品

この大分類をさらに以下のように中分類した。

1. 和装		2. 洋装		3. 有職類	
イ	被り物（頭巾）	イ	被り物（帽子類）	イ	上衣（着物類）
ロ	上衣（着物類）	ロ	上衣（ブラウス類）	ロ	下衣（裳等）
ハ	下衣（袴）	ハ	下衣（スカート類）	ハ	その他
ニ	外衣（合羽、道行類）	ニ	外衣（コート類）		
ホ	下着（肌着類）	ホ	下着（股引、シャツ等）		
ヘ	手甲、脚絆、	ヘ	その他		
ト	その他				

以上、裁縫雛形を中分類したものを区分して順番に並べるが、その際、生活用、職業用、儀礼用、晴れ着であるか、成人用、子供用なども考慮した。資料名については※文献を参考にした。4. 生活用品は種類別とした。

3 資料の種類と点数

上記の調査及び分類の結果、梶山女学園歴史文化館所蔵の雛形資料の和装、洋装、有職類、生活用品の点数と種類は次のようになった。

分類に含まれる点数と種類

1. 和装

分類		点数	種類
イ	被り物	9	2
ロ	上衣	121	34
ハ	下衣	95	23
ニ	外衣	36	7
ホ	下着	9	4
ヘ	手甲、脚絆	5	3
ト	その他	3	2
計		278	75

2・洋装

分類		点数	種類
イ	被り物	4	2
ロ	上衣	28	12
ハ	下衣	3	3
ニ	外衣	4	2
ホ	下着	114	30
ヘ	その他	15	2
計		168	51

3. 有職類

分類		点数	種類
イ	上衣	16	14
ロ	下衣	12	11
ハ	その他	1	1
計		29	26

4. 生活用品

分類	点数
大夜着	7
袖無夜着	9
蚊帳	7
箆笥油単	3
長持油単	3
挟箱油単	4
切暖簾	1
長暖簾	1
幟	1
旗	1
計	37

資料合計点数は 512、資料合計種類は 162 である。

4 トレース

本資料作成にあたり、手描きの図版ではなく、太さと濃さが統一された線とワープロ打ちされた寸法や部分名称のある図版が求められた。そこで、手描きの原図をもとに、その線をデータとして作図するためにパソコンを使ったトレース作業を行った。作図ソフトには Adobe Illustrator を使用した。

トレース作業の手順は、①手書きの原図をスキャナーで画像データとしてパソコンの中に取り込み、②①のスキャナーで取り込んだ図を下敷きにし、パソコン上で原図上の線をなぞるように作図し、③②の図中に寸法線、寸法、部分名称を書き入れる、というものである。

このトレース作業には、生活環境デザイン学科 3 年生の淵上寧々さん浦明衣菜さんはじめ 9 名の学生が協力してくれた。複数名で作業するため、線の太さ、寸法線の太さ、寸法のポイント数およびフォントなどを細かく指定したマニュアルを阿部が作成し、それをもとに作業してもらった。マニュアル作成にあたっては、阿部が線の太さの異なる複数パターン作図し、雛形研究会の先生方にご確認頂き、研究会の意図する図版ができるよう努めた。

総数 512 図という少くない量の図版をひとつひとつスキャナーのガラスの上に載せて、Adobe Photoshop というソフトで画像データとしてパソコンに取り込んで、ひとつひとつ図版 ID をファイル名にして保存するだけでも、1 点あたり 1 分はかかるので、それだけでもなかなかの作業量であった。そこから Illustrator というソフトを開いて、その画面の中でトレース作業に入る。パソコンのなかでトレースする、原図の線をなぞるというのは鉛筆でなぞるのとは全く違う作業である。マウスで画面上のポイントのひとつ指定した後、マウスをドラッグしたりクリックしたりしてほしい線を描くのであるが、このベジェ曲線の作図はできるようになるまで、人にもよるが最低でも 20 時間程度の練習は必要と思う。阿部は生活環境デザイン学科のグラフィックデザイン演習という 1 年後期の授業のなかで、ベジェ曲線の作図を指導しているが、この時点で鉛筆でなぞるようなスピードで思い通りに描画できる学生はまずいない。複雑な曲線を自由に描画できるのは Illustrator に習熟した、一部の 2 年生以上の学生に限られ、スキルは個人差がとても大きい。

作業してくれた 9 名の学生は、生活環境デザイン学科の建築・インテリア分野を主とした 2 年生 3 年生 250 名ほどのなかから、母校の貴重な資料の整備に協力したいと申し出てくれたスキルと熱意のある方々で、それぞれご自身のもてる力を発揮してがんばってくれた。とりわけ淵上さん浦さんは、阿部研究室ということもあって最後の最後まで作業をお願いさせてもらい、4 年生になって就職活動や卒業研究で忙しいにもかかわらず、最も複雑で難易度の高い図版のトレースや全体のとりまとめ、データ管理、細かい確認照合作業をこなし、トレース作業の一番大変なところをカバーしてくれた。彼女達の貢献なくして、このトレースは完遂できなかった。

5 資料のデータベース

雛形資料のデータベース化の発端は、椋山女学園大学の平成 22 年度学園研究費 A(研究代表者：文化情報学部飯塚恵理人)である。この研究費を使用して、歴史文化館の所蔵品のデジタルアーカイブ化の試行を目的に、雛形だけでなく、掛け軸、冊子の一部のデジタルアーカイブ化を行った。限られた予算のため、掛け軸や冊子の撮影は外注したが、雛形に関しては撮影費が不足したため三木が撮影を行った。このように得られた画像を WWW で公開することにより、世界中からアクセス可能とし、その際に検索もできるように雛形と掛け軸に関してはデータベースを構築した。

当時既に雛形研究会により雛形の資料整理が始まっており、各資料について寸法や説明記述が紙媒体の上に手書きで行われていた。500 点以上ある雛形について、これらの情報もデータベース化することになった。データベースとしては余り大きなデータサイズでもなく、処理能力もそれほど必要ではないので、PHP¹⁾に内蔵された Sqlite²⁾をデータベースシステムとした。データベースは学園研究費 A の続きとすることで、文化情報学部のサーバーである zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp の上で稼働するものとなっている。雛形データベースは次の表のような 8 つのテーブルから構成されている。

テーブル名	レコード数	内容
blink	1	「衣服裁縫図解」のどこに掲載されている雛形かを示す
exp	5	画像の説明
hyou	512	雛形データの名称、分類コード、説明など
image	3,086	写真画像がどの雛形のものを示す
kizou	22	寄贈者のデータ
rgb	512	雛形の柄模様の色データ
size	4,682	雛形の大きさの数値データ
sunpou	231	雛形の寸法名称データ

blink のデータを元に、Web 上で表示されている雛形が掲載されている「衣服裁縫図解」のページがすぐ出せるようなシステムになっているが、残念ながらデータがまだ入っていない。hyou の 512 件が現在データベースに入っている雛形の数になる。一つの雛形に付き、通常表と裏の画像が各々2個、一覧表示用の小さい画像が1個、柄模様の画像が1個あるため image は hyou の約6倍の件数となっている。雛形の大きさを記述する寸法として 231 種類ある。例えば「総丈」、「前丈」、「後丈」のように「丈」の付くものだけでも 76 種類ある。寸法の数値データは 4,682 件ある事から、雛形一つに付き平均約 9 個の寸法の記述がある事がわかる。

雛形の説明や寸法などのデータ入力の大半は、現代マネジメント学部平成 23 年度入学生の中山奈美が行った。なじみがない裁縫関連用語や手書きのくずし文字にかなり苦労したようである。

この冊子の資料索引と個別資料のページは、データベースの内容を取り出して PDF の形に変換する PHP のプログラムで作成した。雛形の画像については、そのままのものを取り込むとファイルサイズが巨大になるため、ImageMagick³⁾に付属する convert を利用して適切なサイズの画像に変換している。

1) Web サーバー上で稼働するスクリプト型のプログラミング言語。データベースを Sqlite の ver.2 で作成したため少し古い ver. 5.3.29 を使用している。PHP は <http://php.net/> で公開されており、多くの Web サイトがこれを利用している。

2) SQL で操作可能なリレーショナル型データベースシステム。Sqlite は <https://www.sqlite.org/> で公開されており、様々なアプリケーションソフトの内部でも使われている。

3) ImageMagick は様々な画像処理を行うコマンドから構成されており、ver. 6.9.9-28 のものを使用した。<http://www.imagemagick.org> で公開されている。

6 資料の撮影

雛形の写真撮影の際には、必ずコダック社のカラーセパレーション(大きさ 20cm×6cm)を同時に撮影した。本来の大きさよりも小さく作られたのが雛形である。よってその大きさがわかる写真でなければ意味が半減する。また雛形を個別に撮影するために、画面の大半が一色の雛形で占められるような場合が多く、カメラの色や明るさの自動補正が誤動作する事も多く、その補正のためにもカラーセパレーションは

必要であった。

雛形の撮影は2回行った。1回目は、平成22年の夏から平成23年終わりのころまでで大半の撮影が終了し、一部追加撮影を平成24年や平成25年に行っている。この時は、雛形整理のために、取りあえず現状の形を撮影するというものであった。そのために雛形に付いていたタグもそのまま撮影している。同形の雛形が多数あるものもあり、タグを外すと識別ができなくなる不安もあった。撮影は歴史文化館のある大学図書館の一室を借りて行った。カメラは当時既に所有していたキヤノン社製 EOS Kiss Digital N(解像度約820万画素のデジタル一眼レフカメラ)を使用した。これをUSBでノートパソコンに接続し、撮影した画像をパソコンで確認しながらRAWモードで保存し、カメラの付属ソフトウェアの Digital Photo Professional (ver. 3.9.3.0)で、明るさ・色調の補正とトリミングを行いJPEG形式に変換した。そして画像ファイルをサーバーに送り、データベースに登録する作業まで全て三木一人で行った。既に雛形の冊子を作成するという話はあったが、その際は掲載される一部をプロが再撮影するというような感じであった。

2回目の撮影は、冊子の作成が決まり、そこに全ての雛形の写真を掲載することになり、費用などの点で、再度自前で撮影することとなったため行った。期間は平成29年の秋から平成30年の秋までの約1年間である。今回は文化情報学部平成29年度入学生の山本美友に撮影の手伝いと撮影後の画像処理をってもらったおかげで、1回目の半分の時間で再撮影が終了した。雛形の中には繊維の劣化のためにボロボロのものもあり、1回目はなんとか撮影できたが、2回目は一段と劣化が進み撮影できなかったもの(1・ハ-20 十布遺馬乗袴)もあった。カメラはより解像度の高いキヤノン社製 EOS M3(解像度約2,420万画素のミラーレスタイプ)を購入した。このカメラはUSBではなく無線でiPadに接続可能で、iPadで確認しながら雛形の撮影を行った。撮影した画像ファイルは、Digital Photo Professional (ver.4.2.32.0)で処理した。以後の作業は1回目と同じである。

1回目との撮影機材以外の相違は、真っ白な雛形も少なくないため、背景を白から灰色に変更した。また撮影場所を変更して外光も取り入れるようにした。2回目はタグも外して撮影した。手のひらサイズの小さな雛形では、タグによって隠れていた部分の割合も大きかった。冊子化の際には図もあるため、できるだけ図に合わせた形にして撮影した。2回目の撮影の方ができは良いのだが、1回目に撮影したものも、次項のWebの方では見る事ができるように残してある。

7 資料のホームページ

歴史文化館を訪れても約500点の雛形の全てを見る事はできない。しかし、雛形の写真や説明などは、インターネットに接続されたパソコンやスマートフォンなどで全て見る事ができるようになっている。この冊子では小さな写真しか掲載できないが、ホームページでは写真の解像度の許す限り拡大して見る事ができる。

雛形データベースのホームページのURLは、次の通りである。

<http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/dl/Hinagata/>



HOME > 展示室のご案内 > 資料室 > 雛形データベース

雛形とは、杉山女学園大学の前身である「名古屋義塾女学校」の頃より、被服の作成実習で作られたものです。衣類の見境もり方や裁ち方、縫い方を理解させるために、実物の1/3にして作成しました。寸法を小さくすることにより、作成は一層難しくなり、裁縫技術の向上に役立っていました。本学園には約500点の作品が残っています。現在雛形研究会のメンバーがその整理作業を行っており、その作業中のものの一部を検索または一覧で選択してみる事ができます。

- 雛形データ検索
- 雛形の分類別一覧
- 雛形の色順一覧

お問い合わせ 資料請求 交通アクセス このサイトについて 個人情報保護方針 ENGLISH 採用情報 教職員用

杉山女学園 大学・大学院 高等学校 中学校 小学校 幼稚園 Copyright(c) 2011 Sugiyama Jogakuen. All Rights Reserved.

ここで、「雛形データ検索」、「雛形の分類別一覧」、「雛形の色順一覧」のいずれかを選択する。「雛形データ検索」では次のような検索条件を入力し、雛形の検索をすることができる。

Sugiyama
杉山女学園
歴史文化館

雛形データ検索

条件を設定して「検索」をクリックしてください。

資料名	<input type="text"/>	資料名に含まれる文字を入れてください。
資料名(読み)	<input type="text"/>	資料名の読みに含まれる文字を全角カタカナで入れてください。
使用者	条件なし	性別: 条件なし
用途	条件なし	
材質	条件なし	
仕立方	条件なし	
検印	条件なし	
製作・その他の特徴	<input type="text"/>	製作・その他の特徴に含まれる文字を入れてください。
備考	<input type="text"/>	備考に含まれる文字を入れてください。

雛形データベースのトップにもどる

「資料名」として「女物袷長襦袢」を入力してから「検索」ボタンをクリックすると次のような検索結果が表示される。

Sugiyama
杉山女学園
歴史文化館

雛形データ検索結果

検索条件は以下の通りでした。

資料名 **「女物袷長襦袢」**が含まれる

2 件ありました。

画像をクリックすると詳細が表示されます。 [検索条件へもどる](#)

資料番号	資料名	画像
1-□-3	女物袷長襦袢	
1-□-4	女物袷長襦袢	

[検索条件へもどる](#)
[雛形データベースのトップにもどる](#)

ここで、雛形の画像をクリックすると、その雛形の詳細が次のように表示される。

Sugiyama 杉山女学園 歴史文化館

女物裕長襦袢

◎ 正面 (3945x4255) ○ 正面 (2155x2359) ○ 背面 (3945x4255) ○ 背面 (2166x2331)

縮小 拡大

資料名	女物裕長襦袢 オンナモノアワセナガ ジュバン	
製作者		
寄贈者		
製作場所	本学	製作年
大きさ	身丈：410、後幅：97、 前幅：87、袖幅：110、 袖丈：207、袖付 け：80、袴幅：20、ゆ き：215	
使用者	女 大人	
用途	生活用	
材質	木綿	仕立方 袴入
検印	角印あり	
製作・その他の特徴	表地はあじろ模様赤紫白プリントで ある。裏は赤紫の木綿である。衽は なく、袴が裾までつき、防寒用に使 用する。	
備考：		
墨書	「女物大人別袴長襦袢長服着」	
資料No.	1-ロ-4	

検索結果にもどる 雛形データベースのトップにもどる

また最初に「雛形の分類別一覧」を選択した場合は、次のように表示される。

Sugiyama 杉山女学園 歴史文化館

雛形分類別一覧

歴史文化館の雛形は『渡辺学園裁縫雛形コレクション』（東京家政大学）と同じように分類されています。「展開」をクリックすると下位の分類が表示されます。

- 1-* 和装 (278) 展開
- 2-* 洋装 (168) 展開
- 3-* 有職類 (29) 展開
- 4-* 生活用品 (37) 展開

雛形データベースのトップにもどる

ここで「展開」をクリックするとその分類の下位分類が表示される。例えば「有職類」の横の「展開」をクリックすると、次のようになる。

Sugiyama 杉山女学園 歴史文化館

雛形分類別一覧

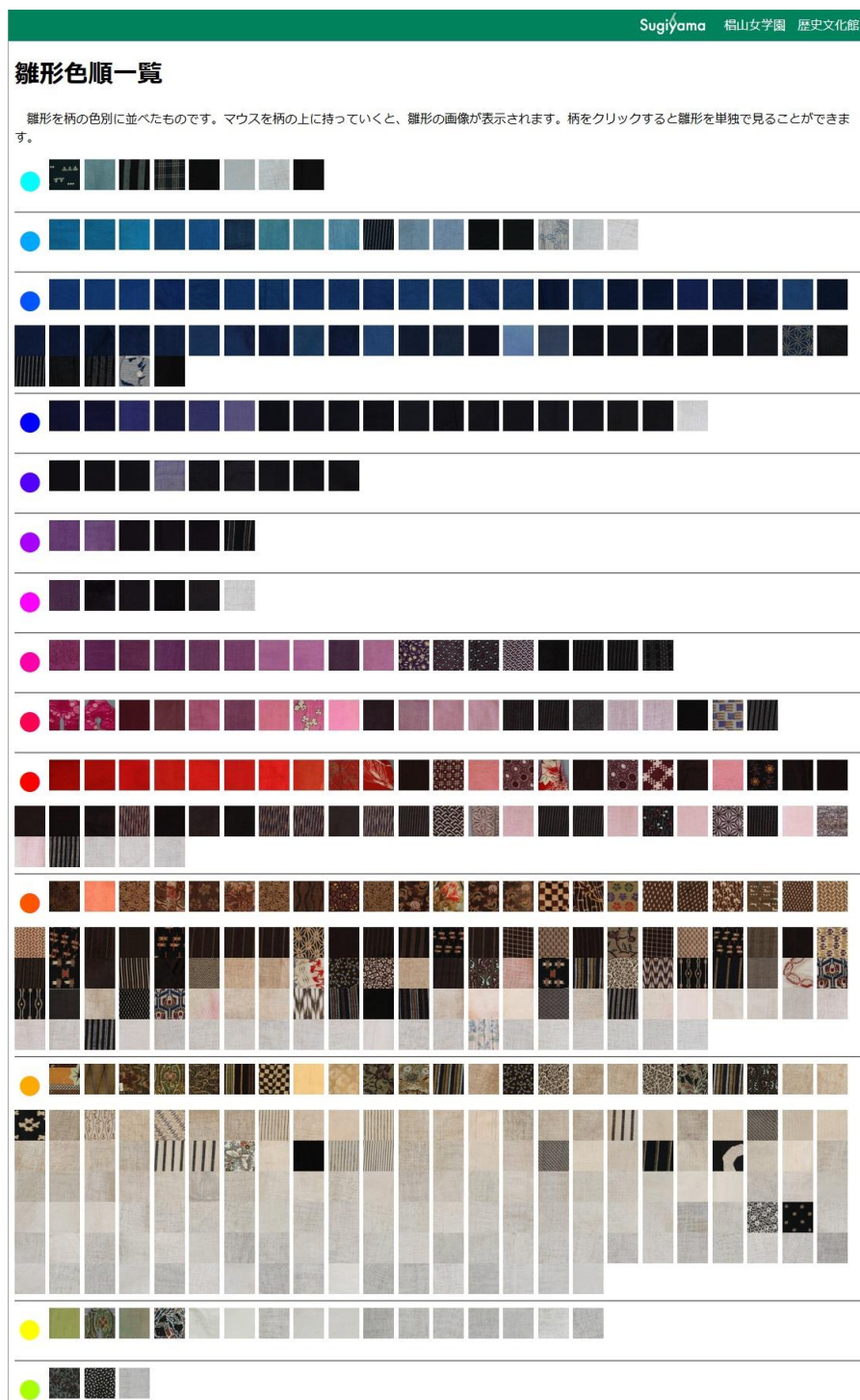
歴史文化館の雛形は『渡辺学園裁縫雛形コレクション』（東京家政大学）と同じように分類されています。「展開」をクリックすると下位の分類が表示されます。

- 1-* 和装 (278) 展開
- 2-* 洋装 (168) 展開
- 3-* 有職類 (29) たたむ
 - 3-イ-* 上衣（着物などを含む） (16) 展開
 - 3-ロ-* 下衣（袴類） (12) 展開
 - 3-ハ-* その他 (1) 展開
- 4-* 生活用品 (37) 展開

雛形データベースのトップにもどる

元に戻す場合は、「たたむ」をクリックする。「展開」を繰り返すと、最後は個々の雛形の名称の一覧になるので、その名称をクリックすると検索の時と同様に詳細が表示される。

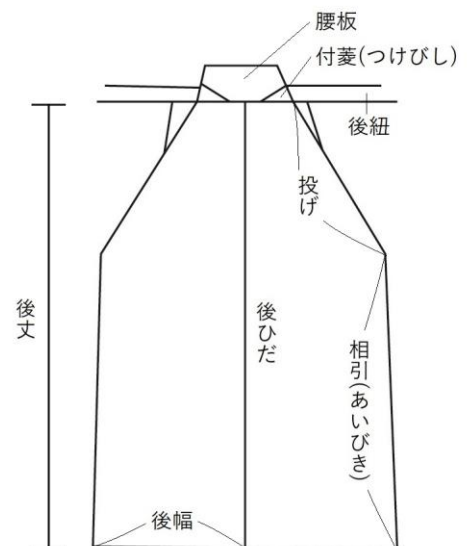
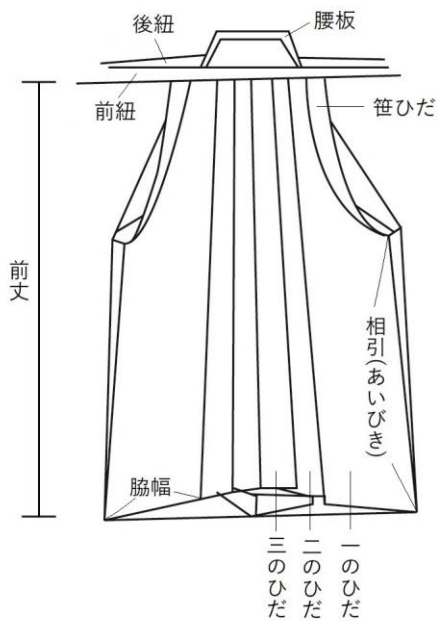
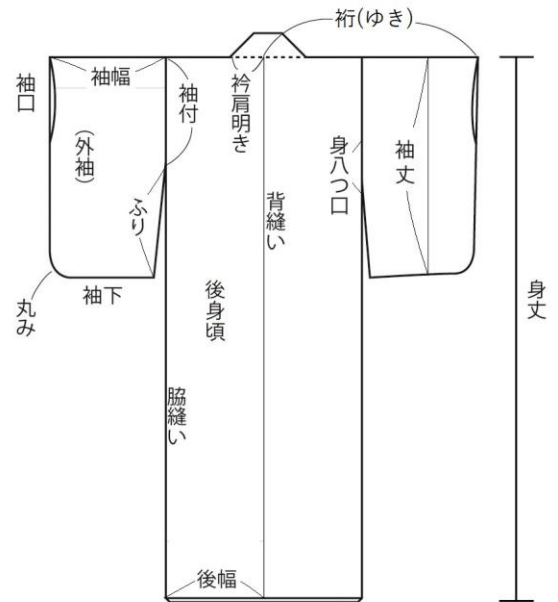
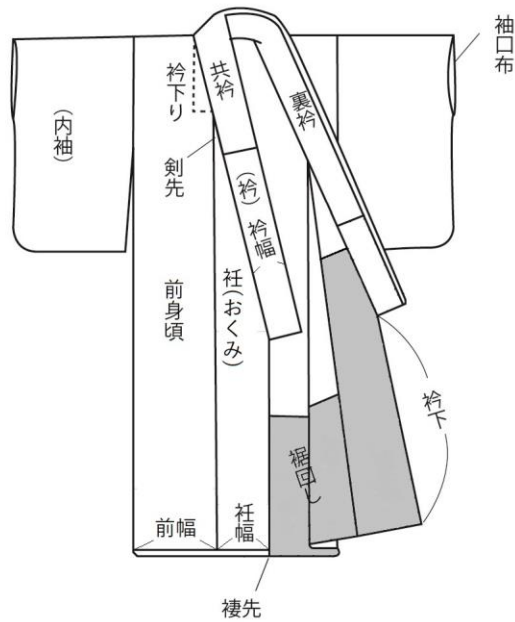
最初に「雛形の色順一覧」を選択すると、雛形の模様の平均的な色調を基に、次のような一覧が表示される。



ここで色のついた四角の上にマウスを持って行くと、元となった雛形が小さく表示される。さらに四角をクリックすると、その元となった雛形の詳細が検索の場合と同様に表示される。

Ⅲ 裁縫雛形参考資料・関連資料

1 着物と袴の部位名称



2 主な用語解説

用語		意味
あ	あこめ 柏	男女の礼服の下着。 ^(ひとえ) 単 と ^(したかまね) 下 襲 との間に着るもの。
	あずまこーと 東コート・吾妻コート	女物の和装用長コート。明治の中ごろに、東京で大流行したのでこの名がある。
	あわせ 袷	^(ひとえしたて) 単 仕 立 ての着物に対して、裏をつけて縫い合わせた着物のこと。
	あわせばかま 袷袴	裏をつけた袷仕立ての袴のこと。
	あんどんばかま 行燈袴	略式仕立ての ^(まち) 襠 のない袴。襠のある馬乗り袴に対する名称。その形がちょうど ^(あんどん) 行 燈 のようであるところからこの名がある。襠なし袴、袋袴、女袴ともいわれている。
い	いつつぎぬ 五衣	女房装束着用のときに用いられた五枚重ねの ^(うちき) 桂 のこと。それ以上に重ねたものもいう。
う	うえのはかま 表袴	^(そくたい) 束 帯 のときに大口袴の上にはく ^(ほかま) 袴 。白袴ともいう。
	うちき 桂	平安時代の貴婦人の ^(せいそう) 盛 装。何枚も重ねて着るもので、袖口や ^(つま) 裾 の重ねた色の美を見せた。
え	えなぎ 胞衣・胞着	宮参りのとき、赤児の産着の上に着せるもの。
お	おおつきやはん 大津脚絆	江戸時代に上方で用いられた脚絆。江戸脚絆に対する名称。
	おすえ 御末	将軍家などで雑役に従事した侍女。
	おとこばかま 男袴	女袴に対する語。 ^(まち) 襠 のある馬乗り袴のこと。
	おんなばかま 女袴	男袴に対する語。明治中期からはえび茶袴が女学生の制服として用いられた。形は ^(まち) 襠 のない ^(あんどんばかま) 行 燈 袴 。
	おんなもっぺい 女モッペイ	労働用として用いる女性用袴。地方によって呼び名が違ったり、仕立てにも違いが見られる。もんぺと同じ語源。
か	かたぎぬ 肩衣	肩や背を覆う袖なしの短衣。
	かつぎ 被衣	婦人が頭からかぶった着物で、武家時代に、身分ある婦人の外出着に用いられた。

用語		意味
か	かつば 合羽	防寒や雨や雪のときに、着物の上を広く覆うように作ったもの。
	かや 蚊帳	夏季に寝床を覆って蚊を防いだもの。
	からぎぬ 唐衣	朝廷につかえる女性の正装用の表衣。唐の服装をまねたところからの名称。
	かりぎぬ 狩衣	公家、武家の服装。平安時代に鷹狩、旅行、蹴鞠などに用いたもの。
	かんたんふく 単国服	単純な形に仕立てた婦人用ワンピース。裾がパツと広がることからアップパツと呼ばれた。
き	きゃはん 脚絆	旅行などのとき、歩きやすくするため脛につけたもの。
	きよ 裾	束帯のときに着る下襲の長く引くうしろ身頃のこと。官職の差によって長短の差が生まれた。
	きりばかま 切り袴	丈が短く、足首までの袴のこと。長袴に対する語。男袴では、平袴、馬乗り袴、野袴などがこれに属する。
く	くくりばかま 縷袴	袴の裾口に紐を込めて通し、引き絞って裾口をすぼめて括る袴の総称。
け	けさ 袈裟	僧が着用する衣のひとつ。衣の上に、左肩から右脇下に斜めに掛けて用いる長方形の布。
	けってき 闕腋	衣服の両脇を縫わずに開けて置くこと。わき開け、または、袍の両わきの下を縫わないもののこと。闕腋の袍の略。
	けってきのほう 闕腋袍	武官が用いる両わきの下の開いた袍のことで、文官が用いる縫腋の袍に対するもの。
	げんろくそで 元禄袖	袖丈は三十センチ以下で、その袂の丸みを大きくした形の袖。元禄時代に女小袖になったことから、この名がある。
こ	こうちぎ 小桂	大桂に対する名称。打ち掛けて着るもので、普通の桂よりも小形。
	こしまき 腰巻	近世の武家の婦人の礼装で、夏、小袖の上から、打ち掛けて肩を脱ぎ、腰から下に巻きつけた衣のこと。
	ごじょうけさ 五條袈裟	袈裟（僧衣のひとつ）の種類の一つで縫い合わせた布片の数により奇数の五条、七条、九条などがある。

用語		意味
こ	こだち 小裁	着物の裁ち方の一つ。一反の三分の一を用いて裁つ裁ち方で、新生児から三歳ぐらいまでの子供の着物に用いられる。
さ	さしぬき 指貫（刺貫）	男袴の一つ。衣冠 ^(いがん) や直衣 ^(ちうい) の下に着る袴。
	さるまた 猿股	男性用の下ばき的一种。猿股とパンツは、褌 ^(まち) があるかなし かによって区別される。
し	したのはかま 下袴	束帯 ^(うゑ) の表 ^(おもて) の袴の下に用いる大口 ^(おおぐち) 袴 ^(はかま) のこと。表 ^(おもて) 袴 ^(はかま) に 対する語。
	じっとく 十徳	室町時代には旅行服として、江戸時代には、儒者、医師な どが礼服として着用。現在の羽織の祖形とも言われる。
	じゅばん 繻絆	和装用の下着。半じゅばん、肌じゅばんなどがある。
	しんぐるぶれすてっどベすと シングルブレストドヴェスト	前の打ち合わせがシングルのチョッキ。
せ	ぜれいにーでいすかーと ゼレイニーデイスカート	The Rainyday Skirt（雨の日のスカート）のこと。比較的 丈の短いスカート。
そ	そうじゅうろうずきん 宗十郎頭巾	頭巾の一種。歌舞伎役者、沢村宗十郎が用いたことからこ の名で呼ばれた。
	そけん 素絹	清浄色である白を基調とした一般的な法衣のひとつ。
た	だいこくぼうし 大黒帽子	七福神の大黒天が被っている大黒頭巾に似た、上が平らな 丸形で縁のない帽子。
	だいもん 大紋	大きな紋が五個ついているところからこの名がある。室町 時代に始まり、江戸時代には武士の礼服とされた。
	だいもんこし 大紋腰	女 ^(おんな) 袴 ^(はかま) の一つ。行燈 ^(あんどん) 袴 ^(はかま) の後ろ中央の重ねひだをなくし たもの。
	たっつけ 裁附	旅行用などに用いられた袴で裾をひもでひざの所にくく りつけ、下部が脚 ^(きゃはん) 絆仕立てになったもの。伊賀袴ともい う。
ち	ちゅうだち 中裁ち	四つ身裁ちともいう。一反の二分の一、または三分の一の 布を用いる裁ち方。四～十二歳ぐらいまでの子供用の着物 の裁ち方。
つ	つけひよく 付け比翼	二枚重ねの下着の回りの部分だけを作って、上着の裏に縫 い付け、あたかも二枚重ねに見えるようにしたもの。

用語		意味
て	てっこう 手甲	手を保護するために、手の甲からひじあたりまでを覆うもの。手さしともいう。
	てさし 手刺	手甲（てっこう）ともいう。手を保護するために手の甲からひじあたりまでを覆うもの。
と	どうぎ 胴着	防寒用として、上着と長じゅばんとの間に着る胴だけの下着。薄く真綿を入れて仕立てる。
	とぬのづかいうまのりばかま 十布遣馬乗袴	片脚分五枚から出来ている馬乗袴。左右の合計で十布を用いるので十布遣いという。
	とぬのづかいおとこばかま 十布遣男袴	片脚分五枚から出来ている男袴。
な	ながぎ 長着	足首のあたりまである丈の長い着物。仕立て業者は着物類を長物、羽織やコートなどを半物と呼んで区別している。
	ながばかま 長袴	三十センチぐらいひきずるほどの長さがある袴で、武人が着たもの。この長袴に対して、現在の袴を半袴、平袴という。
	ながもち 長持	衣服・調度品などを入れる、 ^(ふた) 蓋 つきの長方形の大きな箱。
ね	ねびえしらず 寝冷え不知	子どもが寝冷ないように着せるオーバーオールのような服。
の	のうし 直衣	平安時代の貴族の平常着。
	のばかま 野袴	男袴のひとつ。裾に黒ビロードの縁を付けたもので主に武人の旅行用として用いられた。
は	はやみちずきん 早通頭巾	女の人が外出時に用いた被り物。
	はらがけ 腹掛け	子供の寝冷え予防のためや職人が用いたもの。
	はんてん 半纏	羽織に似ているが、 ^(まち) 襦 も ^(えり) 襟 の折り返しもなく、胸ひももない上着。短くて半身を覆うところからの名称。
ひ	ひたたれ 直垂	平安時代には貴人の夜着であったが、その後、公家や武士の日常服。江戸時代には、侍従以上の人が着用する礼服となった。
	ひとえ 単・單	裏をつけずに単仕立てにした衣類のこと。 ^(あわせ) 「袷」に対する語。
	ひふ 被布	羽織に似た和服用外衣。江戸時代後期から茶人や俳人などによって用いられ始め、明治以降は、女性用として用いられている。

用語		意味
ひ	ひらばかま 平袴	^(ほんばかま) 半 袴・馬乗り袴ともいう。足のくるぶしまでの丈の袴で ^(すそ) 裾にくくり緒のないもの。
	ひよく 比翼	比翼仕立て ^(ながき) の長着の下着にあたる部分のこと。同じ形の布が二枚重なっている状態が二羽の鳥が互いにその翼を並べているように見えるところからの名称。
	ひよくじたて 比翼仕立て	袷の長着の ^(えり) 襟、 ^(すそ) 裾、 ^(そでぐち) 袖口、振りなどに下着の布を重ねて縫いつけ、二枚重ねたように見せかける仕立て方。
ふ	ふいしん 布衣信	^(ひとえ) 単 仕立てで僧侶が着用するもの。
	ふたつみ 二つ身	^(こた) 小裁ちの一つで、一～二歳用の和服の裁ち方。
へ	へんてつ 偏綴	普通の男単羽織であるが仕立てがやや異なる。明治の始め頃に流行した。
ほ	ほう 袍	通常、朝廷に参内するときの公服で、文官の場合の ^(ほうえき) 縫腋と、武官の場合の ^(けつてき) 闕腋があり、形が異なる。
	ほうえ 法衣	仏教の僧尼が教団の規定によって着用する衣服。僧服、法服ともいう。
	ほうえきのほう 縫腋の袍	^(ほう) 袍の一つ。文官が用いた。これに対して武官の用いるものを ^(けつてき) 闕腋の ^(ほう) 袍という。
	ほそばかま 細袴	三歳羽織の下に穿く ^(は) 袴。
	ほんがさね 本重ね	上着と下着を ^(あわせ) 袷のように縫い合わせ、袖口、振り、 ^(えり) 襟、 ^(すそ) 裾の部分 ^(すそ) を別々に仕立てる方法。
	ほんだち 本裁ち	一反で大人の着物一枚を仕立てる裁ち方。大裁ちともいう。
ま	まいちもんじかたぎぬ 眞一文字肩衣	^(ぎだゆう) ^(かたぎぬ) 義太夫の肩衣で肩に縫目をつけて眞一文字に仕立てる。
	まち 襠	和服の布幅の不足する部分に補う布のこと。羽織や ^(ひふ) 被布などのわきに入れる布のこと。袴や袋物などにも用いられる。
み	みちゆき 道行	半コートともいう。型は ^(ひふ) 被布に似ているが、 ^(えり) 襟を細身に仕立て、襟回りに角形の ^(みちゆき) 小襟（道行襟）をつける。
	みつみ 三つ身	一つ身とともに ^(こた) 小裁ちに属する裁ち方。三歳から五歳くらいまでの幼児向きの裁ち方で、一反で二枚裁ちが普通。

用語		意味
も	も 裳	表着の上から、後ろ腰を覆うように着付けた衣服。平安時代の公家の女性が正装用として用いた。
	ももひき 股引	細身の下ばき。下着や仕事着に用いる。
	もんとかたぎぬ 門徒肩衣	門徒宗の人が仏事に着用するもの。
	モッペイ もっぺい	主に労働用として用いる袴で ^(すそ) 裾を足首の所でしぼっており、「もっぺ」「もんぺい」「もんぺ」とも呼ばれる。
ゆ	ゆたん 油単	たんす、長持ちなどに覆い掛ける布。
よ	よぎ 夜着	^(そで) 袖、 ^(おくみ) 衤、 ^(えり) 襟のある掛けぶとん。
	よしつねばかま 義経袴	昔、源義経が陣中で用いたので、この名がある。裾口から七センチくらい上にひもを通し、これを結んで動きやすいように工夫したもの。
	よつみ 四つ身	^(ちゅうだち) 中裁ちともいう。（中裁の項参照）
	よぬのづかいいうまのりばかま 四布遣馬乗袴	片脚分四枚から出来ている馬乗袴。
	よぬのづかいおとこばかま 四布遣男袴	片脚分四枚から出来ている男袴。

主な参考資料

「服飾事典」田中千代著 同文書院出版（1970年）

「総合服飾史事典」丹野郁編 雄山閣出版（1980年）

「きもの用語大辞典」装道きもの学院編 主婦と生活社出版（1986年）

「最新きもの用語辞典」文化出版局編 文化出版局（1995年）

「服装の歴史」高田倭男著 中央公論社（1995年）

「日本衣服文化史要説」山名邦和著 関西衣生活研究会発行（1997年）

3 名古屋裁縫女学校カリキュラム (明治 45 年)

当時の名古屋裁縫女学校は、本科、速成科、師範科第一部、師範科第二部、高等師範科、研究科から構成されており、裁縫以外に國語、算術、理科、唱歌、体操などの科目があった。

本校學科選定の方針

○女子の本領は家庭の整理にあり、是れ本校に於て高同なる學問を避け、主として家政に直接關係ある智識技能を收得練熟せしむる方針を取れる所以なり

○衣類は人生に於ける最大要品なり、而して之を作るには大なる熟練を要す是れ本校が他の學科に比し最も多くの時間を裁縫科に充てたる所以なり

○國語 算術、理科の三科は是れ實に常識を養ふに缺くべからざる學科にして家事の整理上、子孫の教養上最も必要なること論を俟たず、是れ本校に於て特に該三科に多くの教授力を費す所以なり

○女子は成長すれば男子に嫁ぐ、是れ天命なり、されども種々不幸なる事情に依り婚嫁し難きことあり、又たとひ婚嫁すとも薄命にして夫と死別生別せざるべからざることあり是れ本校に於て女子に適切なる生産的手藝を授け以て獨立自營の能力を養ひて之に備へんとする所以なり

本科
(修業年限三年)

學科	修身	裁縫	手藝	家事	國語	算術	理科	圖畫	唱歌	体操	計
授業時間	一	二 三	二 三		五	三	一	一	一	二	三六
第一學年	實踐道德の要領作法	絹布和服ノ裁方、 縮方、縫方、綾方、 洗濯法、編物、細工物			五講讀作文習字	筆算(多數小數諸種算)(加減乘除)	植物動物礦物の初歩	自在畫	一單音唱歌	二普通体操	
授業時間	一	二 三	二 三		五	三	一	一	一	二	三六
第二學年	實踐道德の要領作法	綿布及絹布和服ノ裁方、縮方、縫方、綾方、 方縮布及毛布、 縮法、編物、細工物			五講讀作文習字	筆算(小數比例種算)(加減乘除)	生理衛生物理ノ初歩	自在畫	一單音唱歌	二普通体操	
授業時間	一	二 三	二 三		五	三	一	一	一	二	三六
第三學年	實踐道德の要領作法	縮布及絹布和服及シャツズ、股引、足袋、着袴、紋袴等、襪方、縫方、染色、造花、刺繡		二食住看病 育児家事整理割烹	五講讀作文習字	筆算(比例步合算種算)(加減乘除)	物理化學ノ初歩	自在畫	一單音唱歌	二普通体操	

速成科
(修業年限一ケ年)

學科目	時 授 業	課	程
修身	一 實踐道徳の要領		
裁縫	二 通常ノ和服及シャツ、ズボン下、股引足袋夜着幟帳等ノ作法ヲ積方縫方縫方繰方織方刺繡細工物染色法ミシユン使用法ヲ習物、造花		
家事	二 衣食住、看病、育兒、家事整理、割烹		
國語	五 講讀、作文、習字		
算術	二 筆算（特數小數）珠算（加減乘算）		
唱歌	一 單音唱歌		
体操	二 普通体操		
計	三六		

師範科第一部
(修業年限二ヶ年)

學科目	授業時間	第一學年	授業時間	第二學年
修身	一	實踐道德の要領 作法	一	實踐道德の要領 作法
裁縫	一	綿布及絹布和服ノ裁方積 方縫方轉方	一	綿布絹布ノ和服シャツ、 ズボン、下、服、足袋、夜 着、蚊帳等ノ裁方積方縫 方轉方、使用法、縫方、 色法、溜漣法、遺花、刺繡
手藝	一	洗濯法、蠶物、細工物	二	衣食住、看病、育児 家事整理、刺灸
家事	五	講讀、作文、習字	五	講讀、作文、習字
國語	三	軍算、整數小數諸等數 珠算、加減乘除	三	軍算、分數比(例步合算) 珠算、加減乘除
算術	二	縫科教授法	一	教育學ノ大要
教育	一	日本地理	一	日本地理及外國地理ノ大 要
地理	一	日本歷史ノ大要	一	日本歷史ノ大要
歷史	二	博物生理	二	物理化學
理科	一	自在畫	二	自在畫
圖畫	一	單音唱歌	一	單音唱歌
唱歌	二	普通體操	二	普通體操
体操	三六		三六	

師範科第二部
(修業年限一ケ年)

計	學科目	授業時間	每學年
三六	修身	一 實踐道德の要領 作法	第一學年
	裁縫	二 綿布及絹布和服ノ裁方 三 縫方縫方縫方縫方 四 洗濯法、雜物、細工物	第二學年
	國語	五 講讀、作文、習字	第三學年
	算術	三 裁方積方ノ關係スル四則 分數、比例	第四學年
	教育	二 教育學ノ大要 裁縫科教授法	第五學年
	唱歌	一 單音唱歌	第六學年
	体操	二 普通体操	第七學年
計	學科目	授業時間	每學年
三六	修身	一 實踐道德の要領 作法	第一學年
	裁縫	二 綿布絹布ノ和服ヲ裁方 三 縫方縫方縫方縫方 四 洗濯法、雜物、細工物	第二學年
	國語	五 講讀、作文、習字	第三學年
	算術	三 裁方積方ノ關係スル四則 分數、比例	第四學年
	教育	二 教育學ノ大要 裁縫科教授法	第五學年
	唱歌	一 單音唱歌	第六學年
	体操	二 普通体操	第七學年

高等師範科
(修業年限一々年)

計	三六	體操	唱歌	圖書	國語	教育	手裁縫藝	修身	學科目	每週
									授業時間	時間
		二 普通體操	一 單音唱歌	一 自在畫	五 講讀、作文、習字	二 裁縫科教授法	二 四 普通和服ノ裁方 裁方縫方衣類ノ縫造花初織	一 實踐道德の要領	課	程

研究科
(修業年限六ヶ年)

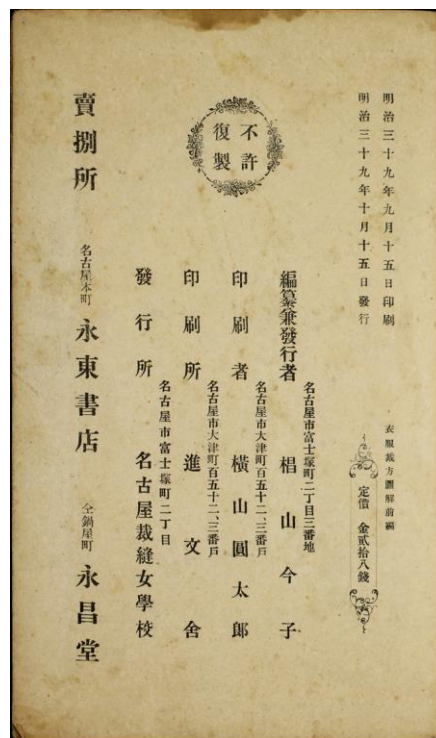
計	裁縫 三五	修身一 實踐道德の要領 中古以後ノ和服裁方、洋服ノ製圖及裁方	學科目
			毎授業時間
三六			課程

本校の特色

4 相山正式・今子による教科書・授業プリント



『衣服裁縫図解』前編表紙

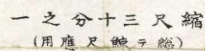


奥付

目次	
第一章 襦袢	一ツ身袖無縫布 甲 八二
第二章 袴	一ツ身袖無縫布 乙 八三
第三章 袴	一ツ身袖無縫布 丙 八四
第四章 袴	一ツ身袖無縫布 丁 八五
第五章 袴	一ツ身袖無縫布 戊 八六
第六章 袴	一ツ身袖無縫布 己 八七
第七章 袴	一ツ身袖無縫布 庚 八八
第八章 袴	一ツ身袖無縫布 辛 八九
第九章 袴	一ツ身袖無縫布 壬 九〇
第十章 袴	一ツ身袖無縫布 癸 九一
第十一章 袴	一ツ身袖無縫布 甲 九二
第十二章 袴	一ツ身袖無縫布 乙 九三
第十三章 袴	一ツ身袖無縫布 丙 九四
第十四章 袴	一ツ身袖無縫布 丁 九五
第十五章 袴	一ツ身袖無縫布 戊 九六
第十六章 袴	一ツ身袖無縫布 己 九七

目次の最後のページと本文の最初のページ

物衣



物 衣

（中）

單羽織

（中一尺九寸）

織羽拾

巾一尺九寸

（中一尺九寸）

（中一尺九寸）

檣


巾一尺九寸

甲一八九寸

5 実物大裁縫雛形・雛形尺



実物大の「三ツ身被布 (1-ロ-63)」 (5 ページに全体を縮小した写真があります)



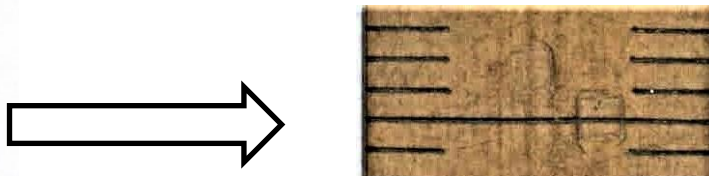
雛形尺（ひながたざし）は、鯨尺（くじらじゃく／古来より和裁用で使用するものさし）による実寸大の約 $1/3$ の縮尺ものさしである。この雛形尺を使えば、計算を行って縮尺を求めることなく、実寸大のものを製作するのと同じように、製作を行うことができた。

鯨尺の1尺は、37.88cmであり、その2尺（20寸／75.76cm）を7寸（26.5cm）、すなわち約 $1/3$ 縮尺したものである。

明治7年頃、渡辺辰五郎（東京裁縫女学校創設者）によって発明されたもので、後の裁縫教育のメソッドである「裁縫雛形の製作」というものが日本全国に広がっていったのは、雛形尺の存在が大きな役割を果たしたと言ってよいであろう。

東京家政大学（東京裁縫女学校を出発点として発展した大学）博物館によれば、明治24（1891）年に度量衡法が制定されると、いわゆる私製品によるものさしの使用は禁止されたが、雛形尺については、学校教育における使用に限ることとした上で、公式に縮尺として認められたものであるとされている。実際の雛形尺には、国・都道府県の検定印「正」が刻印されているのも特徴のひとつである。ここに掲載された雛形尺は、大正時代に梶山第一高等女学校で生徒が実際に使用していたものである。

さて、 $1/3$ のという縮尺の数字については、渡辺辰五郎の裁縫教育メソッドの一つに「布の裁ち方」を重視した経緯から窺い知ることができる。裁縫雛形製作を導入した明治期は、布というものが大変高価なものであり、生徒の経済的負担（布使用の無駄を防ぐ）を考慮して紙を使用して裁縫雛形を製作した。この製作で使用した美濃紙を細長く切り、繋いで反物としものが実物の反物幅の $1/3$ であったことによる。梶山女学園歴史文化館には、美濃紙を用いて製作した生徒の作品が残されていることから、このことが窺い知れる。



正と刻印された国・都道府県の検定証印

IV 資料索引

1-イ-1	宗十郎頭巾	35	1-ロ-27	古織部流十徳	52
1-イ-2	宗十郎頭巾	35	1-ロ-28	古織部流十徳	53
1-イ-3	宗十郎頭巾	36	1-ロ-29	古織部流十徳	53
1-イ-4	宗十郎頭巾	36	1-ロ-30	古織部流十徳	54
1-イ-5	宗十郎頭巾	37	1-ロ-31	古織部流十徳	54
1-イ-6	宗十郎頭巾	37	1-ロ-32	古織部流十徳 (右半身)	55
1-イ-7	宗十郎頭巾	38	1-ロ-33	利休流十徳	55
1-イ-8	宗十郎頭巾	38	1-ロ-34	利休流十徳	56
1-イ-9	早通頭巾	39	1-ロ-35	利休流十徳	56
1-ロ-1	湯する衣	39	1-ロ-36	利休流十徳	57
1-ロ-2	湯する衣	40	1-ロ-37	利休流十徳 (左半身)	57
1-ロ-3	女物袷長襦袢	40	1-ロ-38	素絹	58
1-ロ-4	女物袷長襦袢	41	1-ロ-39	偏綴	58
1-ロ-5	丸胴着	41	1-ロ-40	布衣信	59
1-ロ-6	丸胴着	42	1-ロ-41	布衣信	59
1-ロ-7	丸胴着	42	1-ロ-42	布衣信	60
1-ロ-8	丸胴着	43	1-ロ-43	布衣信	60
1-ロ-9	女物綿入長胴着	43	1-ロ-44	布衣信	61
1-ロ-10	女物綿入長胴着	44	1-ロ-45	布衣信	61
1-ロ-11	女物綿入長胴着	44	1-ロ-46	布衣信	62
1-ロ-12	女物綿入長胴着	45	1-ロ-47	布衣信	62
1-ロ-13	女物綿入長胴着	45	1-ロ-48	本裁女物單羽織	63
1-ロ-14	ねんねこ半纏 (綿入)	46	1-ロ-49	本裁女物單羽織	63
1-ロ-15	本裁男袷羽織 (左半身)	46	1-ロ-50	本裁女物單羽織	64
1-ロ-16	有楽流十徳	47	1-ロ-51	本裁女物單羽織	64
1-ロ-17	有楽流十徳	47	1-ロ-52	本裁女物被布	65
1-ロ-18	有楽流十徳	48	1-ロ-53	本裁女物被布	65
1-ロ-19	有楽流十徳	48	1-ロ-54	本裁女物被布	66
1-ロ-20	有楽流十徳	49	1-ロ-55	本裁女物被布	66
1-ロ-21	有楽流十徳	49	1-ロ-56	本裁女物被布	67
1-ロ-22	有楽流十徳 (右半身)	50	1-ロ-57	本裁女物被布	67
1-ロ-23	古織部流十徳	50	1-ロ-58	本裁女物被布	68
1-ロ-24	古織部流十徳	51	1-ロ-59	本裁女物被布	68
1-ロ-25	古織部流十徳	51	1-ロ-60	四ツ身被布	69
1-ロ-26	古織部流十徳	52	1-ロ-61	四ツ身袷	69

1-口-62	四ツ身袷	70	1-口-100	女物袷長着	89
1-口-63	三ツ身被布	70	1-口-101	女物袷長着	89
1-口-64	三ツ身袷	71	1-口-102	腹掛	90
1-口-65	三ツ身袷	71	1-口-103	腹掛	90
1-口-66	三ツ身綿入	72	1-口-104	襦袢衿腹掛	91
1-口-67	三ツ身單	72	1-口-105	辯護士禮服	91
1-口-68	二ツ身袷	73	1-口-106	真一文字肩衣	92
1-口-69	二ツ身綿入	73	1-口-107	法衣	92
1-口-70	本裁本比翼	74	1-口-108	法衣	93
1-口-71	本裁本比翼	74	1-口-109	門徒肩衣	93
1-口-72	本裁本比翼	75	1-口-110	門徒肩衣	94
1-口-73	本裁本比翼	75	1-口-111	男袍衣	94
1-口-74	本裁本比翼	76	1-口-112	女袍衣	95
1-口-75	本裁本比翼・附比翼	76	1-口-113	小裁單衣本重	95
1-口-76	本裁本比翼・附比翼	77	1-口-114	小裁單衣本重	96
1-口-77	本裁本比翼・附比翼	77	1-口-115	小裁單衣本重	96
1-口-78	本裁本比翼・附比翼	78	1-口-116	小裁單衣本重	97
1-口-79	本裁本比翼・附比翼	78	1-口-117	小裁單衣本重	97
1-口-80	本裁本比翼・附比翼	79	1-口-118	小裁單衣本重	98
1-口-81	本裁本比翼・附比翼	79	1-口-119	小裁單衣本重	98
1-口-82	本裁單衣本重	80	1-口-120	小裁單衣本重	99
1-口-83	本裁單衣本重	80	1-口-121	小裁單衣本重	99
1-口-84	本裁單衣本重	81	1-ハ-1	四布遣馬乗袴	100
1-口-85	本裁單衣本重	81	1-ハ-2	四布遣馬乗袴	100
1-口-86	本裁單衣本重	82	1-ハ-3	四布遣馬乗袴	101
1-口-87	本裁單衣本重	82	1-ハ-4	四布遣馬乗袴	101
1-口-88	本裁單衣本重	83	1-ハ-5	四布遣馬乗袴	102
1-口-89	本裁單衣本重	83	1-ハ-6	四布遣馬乗袴	102
1-口-90	本裁單衣本重	84	1-ハ-7	四布遣馬乗袴 (未完成)	103
1-口-91	本裁單衣本重	84	1-ハ-8	十布遣馬乗袴	103
1-口-92	本裁單衣半重	85	1-ハ-9	十布遣馬乗袴	104
1-口-93	本裁單衣半重	85	1-ハ-10	十布遣馬乗袴	104
1-口-94	本裁單衣半重	86	1-ハ-11	十布遣馬乗袴	105
1-口-95	本裁單衣半重	86	1-ハ-12	十布遣馬乗袴	105
1-口-96	本裁單衣半重	87	1-ハ-13	十布遣馬乗袴	106
1-口-97	本裁單衣半重	87	1-ハ-14	十布遣馬乗袴	106
1-口-98	本裁單衣半重	88	1-ハ-15	十布遣馬乗袴	107
1-口-99	本裁單衣半重	88	1-ハ-16	十布遣馬乗袴	107

1-ハ-17	十布遣馬乗袴	108	1-ハ-55	中裁大紋腰女袴	127
1-ハ-18	十布遣馬乗袴	108	1-ハ-56	中裁大紋腰女袴	127
1-ハ-19	十布遣馬乗袴	109	1-ハ-57	小裁三ツ稜女袴	128
1-ハ-20	十布遣馬乗袴 (破損)	109	1-ハ-58	小裁三ツ稜女袴	128
1-ハ-21	十布遣馬乗袴	110	1-ハ-59	小裁三ツ稜女袴	129
1-ハ-22	袷袴	110	1-ハ-60	本裁單半股引	129
1-ハ-23	袷袴	111	1-ハ-61	本裁單半股引	130
1-ハ-24	袷袴	111	1-ハ-62	本裁單半股引	130
1-ハ-25	袷袴	112	1-ハ-63	本裁單半股引	131
1-ハ-26	袷袴	112	1-ハ-64	本裁單半股引	131
1-ハ-27	袷袴	113	1-ハ-65	本裁單半股引	132
1-ハ-28	袷袴	113	1-ハ-66	本裁單半股引	132
1-ハ-29	袷袴	114	1-ハ-67	本裁單股引	133
1-ハ-30	袷袴	114	1-ハ-68	本裁單股引	133
1-ハ-31	袷袴	115	1-ハ-69	本裁單股引	134
1-ハ-32	袷袴	115	1-ハ-70	本裁單股引	134
1-ハ-33	野袴	116	1-ハ-71	本裁單股引	135
1-ハ-34	野袴	116	1-ハ-72	本裁單股引	135
1-ハ-35	平袴	117	1-ハ-73	本裁單股引	136
1-ハ-36	細袴	117	1-ハ-74	本裁袷股引	136
1-ハ-37	義經袴	118	1-ハ-75	本裁袷股引	137
1-ハ-38	行燈袴	118	1-ハ-76	本裁袷股引	137
1-ハ-39	中裁男袴	119	1-ハ-77	本裁袷股引	138
1-ハ-40	中裁男袴	119	1-ハ-78	本裁袷股引	138
1-ハ-41	中裁男袴	120	1-ハ-79	本裁袷股引	139
1-ハ-42	中裁男袴	120	1-ハ-80	本裁袷股引	139
1-ハ-43	本裁大紋腰女袴	121	1-ハ-81	本裁袷股引	140
1-ハ-44	本裁大紋腰女袴	121	1-ハ-82	男モッペイ	140
1-ハ-45	本裁大紋腰女袴	122	1-ハ-83	裁附	141
1-ハ-46	本裁大紋腰女袴	122	1-ハ-84	シャモ裁附	141
1-ハ-47	本裁大紋腰女袴	123	1-ハ-85	女モッペイ	142
1-ハ-48	本裁大紋腰女袴	123	1-ハ-86	七ツ子男袴	142
1-ハ-49	本裁七ツ稜襠有女袴	124	1-ハ-87	七ツ子男袴	143
1-ハ-50	本裁七ツ稜襠有女袴	124	1-ハ-88	七ツ子男袴	143
1-ハ-51	本裁七ツ稜襠有女袴	125	1-ハ-89	七ツ子男袴	144
1-ハ-52	本裁七ツ稜襠有女袴	125	1-ハ-90	五ツ子男袴	144
1-ハ-53	本裁七ツ稜襠有女袴	126	1-ハ-91	五ツ子男袴	145
1-ハ-54	中裁三ツ稜女袴	126	1-ハ-92	五ツ子男袴	145

1-ハ-93	五ツ子男袴	146	1-ニ-36	女東コート	165
1-ハ-94	五ツ子男袴	146	1-ホ-1	男猿股	165
1-ハ-95	五ツ子男袴	147	1-ホ-2	小裁男猿股	166
1-ニ-1	半合羽	147	1-ホ-3	小裁女股引	166
1-ニ-2	半合羽	148	1-ホ-4	小裁女股引	167
1-ニ-3	半合羽	148	1-ホ-5	寝冷不知釦掛	167
1-ニ-4	半合羽	149	1-ホ-6	寝冷不知紐附	168
1-ニ-5	半合羽	149	1-ホ-7	寝冷不知紐附	168
1-ニ-6	半合羽	150	1-ホ-8	寝冷不知紐附	169
1-ニ-7	長合羽	150	1-ホ-9	寝冷不知紐附	169
1-ニ-8	長合羽	151	1-ヘ-1	手甲	170
1-ニ-9	長合羽	151	1-ヘ-2	手甲	170
1-ニ-10	長合羽	152	1-ヘ-3	手刺	171
1-ニ-11	長合羽	152	1-ヘ-4	大津脚半	171
1-ニ-12	本裁男物單道行	153	1-ヘ-5	大津脚半	172
1-ニ-13	本裁男物單道行	153	1-ト-1	涎掛	172
1-ニ-14	本裁男物單道行	154	1-ト-2	涎掛	173
1-ニ-15	本裁男物單道行	154	1-ト-3	湯揚	173
1-ニ-16	本裁男物單道行	155	2-イ-1	大黒帽子	174
1-ニ-17	本裁男裕道行	155	2-イ-2	大黒帽子	174
1-ニ-18	本裁男裕道行	156	2-イ-3	日覆帽子	175
1-ニ-19	本裁男裕道行	156	2-イ-4	日覆帽子	175
1-ニ-20	本裁男裕道行	157	2-ロ-1	シングルプレステッドヴェスト	176
1-ニ-21	本裁男裕道行（未完成）	157	2-ロ-2	水兵形簡單服	176
1-ニ-22	本裁男物コート	158	2-ロ-3	女兒服	177
1-ニ-23	本裁男物コート	158	2-ロ-4	女兒服	177
1-ニ-24	本裁男物コート	159	2-ロ-5	女兒服	178
1-ニ-25	本裁男物コート	159	2-ロ-6	女兒服	178
1-ニ-26	本裁男物コート	160	2-ロ-7	本裁男物海水浴着	179
1-ニ-27	本裁男物コート	160	2-ロ-8	本裁男物海水浴着	179
1-ニ-28	本裁女單コート	161	2-ロ-9	本裁男物海水浴着	180
1-ニ-29	本裁女單コート	161	2-ロ-10	本裁男物海水浴着	180
1-ニ-30	本裁女單コート	162	2-ロ-11	本裁男物海水浴着	181
1-ニ-31	本裁女物コート	162	2-ロ-12	本裁男物海水浴着	181
1-ニ-32	本裁女物コート	163	2-ロ-13	本裁女物海水浴着	182
1-ニ-33	本裁女物コート	163	2-ロ-14	本裁女物海水浴着	182
1-ニ-34	本裁女物コート	164	2-ロ-15	本裁女物海水浴着	183
1-ニ-35	女東コート	164	2-ロ-16	本裁女物海水浴着	183

2-ロ-17	本裁女物海水浴着	184	2-ホ-20	ホワイトシャツ	203
2-ロ-18	本裁女物海水浴着	184	2-ホ-21	ホワイトシャツ	203
2-ロ-19	小中学校制服上着	185	2-ホ-22	ホワイトシャツ	204
2-ロ-20	学校制服上着	185	2-ホ-23	ホワイトシャツ	204
2-ロ-21	水兵服・ツボン	186	2-ホ-24	女子半袖シャツ	205
2-ロ-22	小裁運動シャツ・ツボン	186	2-ホ-25	女子半袖シャツ	205
2-ロ-23	小裁運動シャツ・ツボン	187	2-ホ-26	本裁西洋寝間着	206
2-ロ-24	小裁運動ツボン	187	2-ホ-27	本裁西洋寝間着	206
2-ロ-25	医師ノ手術衣（甲）	188	2-ホ-28	本裁西洋寝間着	207
2-ロ-26	医師ノ手術衣（丙）	188	2-ホ-29	本裁西洋寝間着	207
2-ロ-27	医師ノ手術衣（丙）	189	2-ホ-30	本裁西洋寝間着	208
2-ロ-28	看護服	189	2-ホ-31	本裁西洋寝間着	208
2-ハ-1	パンツ	190	2-ホ-32	小裁西洋寝間着	209
2-ハ-2	ゼレイニーデイスカート	190	2-ホ-33	小裁西洋寝間着	209
2-ハ-3	水兵ツボン	191	2-ホ-34	小裁西洋寝間着	210
2-ニ-1	ハーフサークルケープ	191	2-ホ-35	小裁西洋寝間着	210
2-ニ-2	ハーフサークルケープ	192	2-ホ-36	小裁西洋寝間着	211
2-ニ-3	学校外套	192	2-ホ-37	小裁西洋寝間着	211
2-ニ-4	学校外套	193	2-ホ-38	ロンパース	212
2-ホ-1	本裁普通シャツ	193	2-ホ-39	本裁胯上股引仕立ツボン下	212
2-ホ-2	本裁普通シャツ	194	2-ホ-40	本裁胯上股引仕立ツボン下	213
2-ホ-3	中裁普通シャツ	194	2-ホ-41	本裁胯上股引仕立ツボン下	213
2-ホ-4	中裁普通シャツ	195	2-ホ-42	中裁胯上股引仕立ツボン下	214
2-ホ-5	本裁半袖シャツ	195	2-ホ-43	中裁胯上股引仕立ツボン下	214
2-ホ-6	中裁半袖シャツ	196	2-ホ-44	小裁胯上股引仕立ツボン下	215
2-ホ-7	中裁半袖シャツ	196	2-ホ-45	本裁脇縫目有紐付ツボン下	215
2-ホ-8	中裁半袖シャツ	197	2-ホ-46	本裁脇縫目有紐付ツボン下	216
2-ホ-9	中裁半袖シャツ	197	2-ホ-47	本裁脇縫目有紐付ツボン下	216
2-ホ-10	中裁半袖シャツ	198	2-ホ-48	本裁脇縫目有紐付ツボン下	217
2-ホ-11	中裁半袖シャツ	198	2-ホ-49	本裁脇縫目有紐付ツボン下	217
2-ホ-12	中裁半袖シャツ	199	2-ホ-50	本裁脇縫目有紐付ツボン下	218
2-ホ-13	中裁半袖シャツ	199	2-ホ-51	本裁脇縫目有紐付ツボン下	218
2-ホ-14	小裁半袖シャツ	200	2-ホ-52	本裁脇縫目有紐付ツボン下	219
2-ホ-15	大人太鼓胴シャツ折衿	200	2-ホ-53	本裁脇縫目有紐付ツボン下	219
2-ホ-16	大人太鼓胴シャツ	201	2-ホ-54	本裁脇縫目無紐付ツボン下	220
2-ホ-17	ホワイトシャツ	201	2-ホ-55	中裁脇縫目無紐付ツボン下	220
2-ホ-18	ホワイトシャツ	202	2-ホ-56	小裁脇縫目無紐付ツボン下	221
2-ホ-19	ホワイトシャツ	202	2-ホ-57	中裁紐付ツボン下	221

2-ホ-58	中裁紐付ヅボン下	222	2-ホ-96	小裁胸當付飾シャツ	241
2-ホ-59	中裁紐付ヅボン下	222	2-ホ-97	大人太鼓胴飾シャツ	241
2-ホ-60	小裁紐付ヅボン下	223	2-ホ-98	大人太鼓胴飾シャツ	242
2-ホ-61	小裁紐付ヅボン下	223	2-ホ-99	大人太鼓胴飾シャツ	242
2-ホ-62	小裁紐付ヅボン下	224	2-ホ-100	大人太鼓胴飾シャツ	243
2-ホ-63	大人腰廻付ヅボン下 (甲)	224	2-ホ-101	大人太鼓胴飾シャツ	243
2-ホ-64	大人腰廻付ヅボン下 (甲)	225	2-ホ-102	大人太鼓胴飾シャツ	244
2-ホ-65	大人腰廻付ヅボン下 (甲)	225	2-ホ-103	大人太鼓胴飾シャツ	244
2-ホ-66	大人腰廻付ヅボン下 (甲)	226	2-ホ-104	大人太鼓胴飾シャツ	245
2-ホ-67	大人腰廻付ヅボン下 (甲)	226	2-ホ-105	中裁太鼓胴飾シャツ	245
2-ホ-68	大人腰廻付ヅボン下 (甲)	227	2-ホ-106	中裁太鼓胴飾シャツ	246
2-ホ-69	大人腰廻付ヅボン下 (甲)	227	2-ホ-107	中裁太鼓胴飾シャツ	246
2-ホ-70	大人腰廻付ヅボン下 (甲)	228	2-ホ-108	中裁太鼓胴飾シャツ	247
2-ホ-71	大人腰廻付ヅボン下 (甲)	228	2-ホ-109	中裁太鼓胴飾シャツ	247
2-ホ-72	中裁腰廻付ヅボン下 (甲)	229	2-ホ-110	中裁太鼓胴飾シャツ	248
2-ホ-73	中裁腰廻付ヅボン下 (甲)	229	2-ホ-111	小裁太鼓胴飾シャツ	248
2-ホ-74	中裁腰廻付ヅボン下 (甲)	230	2-ホ-112	小裁太鼓胴飾シャツ	249
2-ホ-75	中裁腰廻付ヅボン下 (甲)	230	2-ホ-113	ドロワース	249
2-ホ-76	小裁腰廻付ヅボン下 (甲)	231	2-ホ-114	ペティコート	250
2-ホ-77	小裁腰廻付ヅボン下 (甲)	231	2-ヘ-1	西洋前掛	250
2-ホ-78	小裁腰廻付ヅボン下 (甲)	232	2-ヘ-2	西洋前掛	251
2-ホ-79	小裁腰廻付ヅボン下 (甲)	232	2-ヘ-3	子供西洋前掛	251
2-ホ-80	小裁腰廻付ヅボン下 (甲)	233	2-ヘ-4	子供西洋前掛	252
2-ホ-81	本裁胸當付飾シャツ	233	2-ヘ-5	子供西洋前掛	252
2-ホ-82	本裁胸當付飾シャツ	234	2-ヘ-6	子供西洋前掛	253
2-ホ-83	本裁胸當付飾シャツ	234	2-ヘ-7	子供西洋前掛	253
2-ホ-84	本裁胸當付飾シャツ	235	2-ヘ-8	子供西洋前掛	254
2-ホ-85	本裁胸當付飾シャツ	235	2-ヘ-9	子供西洋前掛	254
2-ホ-86	本裁胸當付飾シャツ	236	2-ヘ-10	子供西洋前掛	255
2-ホ-87	本裁胸當付飾シャツ	236	2-ヘ-11	子供西洋前掛	255
2-ホ-88	本裁胸當付飾シャツ	237	2-ヘ-12	子供西洋前掛	256
2-ホ-89	中裁胸當付飾シャツ	237	2-ヘ-13	子供西洋前掛	256
2-ホ-90	中裁胸當付飾シャツ	238	2-ヘ-14	子供西洋前掛 (未完成)	257
2-ホ-91	中裁胸當付飾シャツ	238	2-ヘ-15	子供西洋前掛 (未完成)	257
2-ホ-92	中裁胸當付飾シャツ	239	3-イ-1	柏	258
2-ホ-93	小裁胸當付飾シャツ	239	3-イ-2	闕腋袍	258
2-ホ-94	小裁胸當付飾シャツ	240	3-イ-3	大紋	259
2-ホ-95	小裁胸當付飾シャツ	240	3-イ-4	大直衣	259

3-イ-5	小直衣	260	4-7	大夜着	275
3-イ-6	直垂	260	4-8	袖無夜着	276
3-イ-7	狩衣	261	4-9	袖無夜着	276
3-イ-8	中一文字肩衣	261	4-10	袖無夜着	277
3-イ-9	丸形肩衣	262	4-11	袖無夜着	277
3-イ-10	丸形肩衣	262	4-12	袖無夜着	278
3-イ-11	五衣	263	4-13	袖無夜着	278
3-イ-12	唐衣	263	4-14	袖無夜着	279
3-イ-13	小桂	264	4-15	袖無夜着	279
3-イ-14	小桂	264	4-16	袖無夜着	280
3-イ-15	御末ノ腰巻	265	4-17	蚊帳	280
3-イ-16	被衣	265	4-18	蚊帳	281
3-ロ-1	下袴	266	4-19	蚊帳	281
3-ロ-2	表袴	266	4-20	蚊帳	282
3-ロ-3	裾	267	4-21	蚊帳	282
3-ロ-4	縊袴	267	4-22	蚊帳	283
3-ロ-5	縊袴	268	4-23	蚊帳	283
3-ロ-6	刺貫袴	268	4-24	簞笥油單	284
3-ロ-7	半長袴	269	4-25	簞笥油單	284
3-ロ-8	半長袴	269	4-26	簞笥油單	285
3-ロ-9	本長袴	270	4-27	長持油單	285
3-ロ-10	切袴	270	4-28	長持油單	286
3-ロ-11	緋ノ本長袴	271	4-29	長持油單	286
3-ロ-12	裳	271	4-30	挾箱油單	287
3-ハ-1	五條袈裟	272	4-31	挾箱油單	287
4-1	大夜着	272	4-32	挾箱油單	288
4-2	大夜着	273	4-33	挾箱油單	288
4-3	大夜着	273	4-34	切暖簾	289
4-4	大夜着	274	4-35	長暖簾	289
4-5	大夜着	274	4-36	幟	290
4-6	大夜着	275	4-37	旗	290

V 個別資料



大正1年12月発行 学園誌「糸菊」12ページより
なお、この「糸菊」には1・イ・2 宗十郎頭巾など21点の雛形の作者である中根せきが
寄稿している。